

領域開拓プログラム(研究テーマ公募型研究テーマ)

- ◆課題:「人口知能など高度化する情報技術社会におけるルールと公共性の問題」
- ◆研究テーマ:「AIが介護保険行政を代行する際のルールに関する研究
—地域経営とSCの視座から—」

研究期間:R2.10~R5.3
委託費総額:13,845千円

<研究代表者>

川島典子: 福知山公立大学地域経営学部医療福祉経営学科/
教授



<専門分野>

社会福祉、地域福祉、ジェンダー

<Webページ>

https://www.fukuchiyama.ac.jp/about/educational_info/prof/kawashima/

<研究目的・概要>

社会資源や人的資源に乏しく、地域のボランティアも高齢化している中山間地域において、人間に代わってAIが福祉労働を代行することが期待されている。

AIが自治体の介護保険行政を代行する際、福祉専門職の業務の判断の自立性をどの程度AIに委ねるのが適切なのかという点に関する倫理とルールを検証することを研究の目的とする。

・提携自治体の福祉担当部署の行政職員と福祉専門職を対象にして半構造化面接を行い、グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)により分析し、AIに学習させるルールと倫理を開発する。

・ソーシャル・キャピタル(SC)に関する自記式アンケート調査を行い、相関分析、ロジスティック回帰分析、マルチレベル分析等によって分析して、どうすればAIを地域の人々が受け入れ得るのかをSCの視座から検証する。

AIが介護保険行政における福祉労働を代行する際に必要なルールを文理融合の研究手法によって明らかにするという点で独自性が高く、人文学・社会科学領域の新たな展開と発展が期待でき、中山間地域経営に貢献できる点において意義が大きい。

<研究計画の特徴>

- ①要介護認定やケアマネジメント及び介護予防教室に特化して、AIが専門職や地域のボランティアの福祉労働を代行する際の倫理やルールを明らかにした先行研究はないという点において先導的である。
- ②AIには代行できないといわれている人間の尊厳を重視した高い倫理が要求される社会福祉士の業務をAIが代行できるよう、専門職への半構造化面接からAIに学習させる倫理とルールを開発し、地域におけるAIの阻害要因と促進要因をSCの視座から量的調査によって検証する。

<目標とする研究成果>

- (1)AIによる福祉業務代行の倫理的ガイドラインを作成

AIに、要介護認定やケアマネジメント及び地域支援事業による介護予防に関する福祉専門職の業務を代行させる際の倫理的ガイドラインを作成する。

- (2)AIによる中山間地域福祉行政経営の処方箋を提示

社会科学を専門とする研究者とAI等を専門とする研究者による文理融合の研究を行い、AIによる福祉行政代行の具体的処方箋を示す。

<将来展望>

AIによる中山間地域経営の新しい方策を示すことができる。